

第2学年 国語科学習指導案

日 時 令和元年11月13日(水) 5校時

学 級 2年A組 男子14名 女子8名 計22名

指導者 教諭 倉本 優子

場 所 2年A組教室

1 単元名 「平家物語」の魅力について考えよう

教材名 「平家物語」(東京書籍2年)

2 単元について

(1) 教材観

本単元では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」ア(ア)「作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。」、(イ)「古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。」及び「読むこと」C(1)エ「文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。」の能力の育成をねらいとしている。

「平家物語」は、琵琶法師によって平曲として語り継がれてきた物語である。繰り返し音読することで、その表現と語り口の面白さを味わうことができる。また、「平家物語」は平家の栄華と滅亡を描いた軍記物語で、戦いの様子ばかりではなく、登場人物の心情や生き方とともに描かれる世界観、人生観にも迫ることができる。合戦という緊迫した状況に追い詰められた、当時の武士の生き方や心情について理解を深めることができる作品である。

本時に扱う「弓流」では、与一に対して賞賛の意を表して舞い始めた平家の「年五十ばかりなる男」を、与一は非情にも射倒している。主君の命令に逆らうことができない、当時の武士の世界の非情さをより鮮明に感じ取ることができる場面である。だからこそ、与一の行動に対しては生徒がそれぞれ考えを持ちやすいと考える。本時は「正解」を求める学習ではないため、間違いを気にすることなく、自由に自分の考えを述べる点においても、この教材は適している。

(2) 生徒観

生徒は、小学生の時に取り組んだ古典の音読や、1年次に学習した「伊曾保物語」「竹取物語」のことをよく覚えており、音読や暗唱を中心にした古典学習の楽しさを想起することができた。2年次にはすでに、「枕草子」について学習しており、時代を越えて共通するものの見方や作者の独特な感性について、グループ学習によって理解を深めることができた。

意見を伝えることに苦手を感じている生徒でも、ペアやグループの話し合いでは少しずつ意見を述べるようになるようになってきた。小集団の活動を毎時間設定していくことで、意見を述べることへの抵抗感をなくしていきたい。

(3) 指導観

古典の音読や暗唱に抵抗を感じると述べる生徒は多いものの、実際は楽しそうに音読・暗唱している。そこで、「平家物語」を音読させることで、独特のリズムが醸し出す心地よさを味わわせ、作品に親しませたい。また、歴史的背景を学びながら、古人のものの見方や考え方に触れる活動を行い、古文に対する読みを深めたい。意見を述べることに消極的な生徒の実態を踏まえ、すべての生徒が発表し、のびのびと意見交換

が行える場を設定したい。そのためにペア学習やグループ学習の場を設けて、主体的な発表や意見の交流を促す。他の生徒と意見を交流することで、多様な視点での考えがあることを知り、自分の考えも一層深まることが期待される。

3 本研究とのかかわりについて

本校の研究主題は「自分の思いを主体的に伝える生徒の育成」～伝える場面の工夫を通して～である。本校の生徒は幼少期からほぼ同一の人間関係で育ってきており、互いをよく理解しているが、そのことが逆に「特に話さなくてもなんとなく伝わるだろう」「表情や雰囲気であわかってほしい」などと発言発表の弱さをもたらしている。

国語科では、全ての生徒が、自分の考えを持ち、臆せず語るができるように、1時間の授業の中にペア学習やグループ学習を取り入れている。集団を小規模にすることで、全体の場では発表をためらう生徒も意見を発表しやすくなると考える。

また、考えを伝え合い聞き合う中で、納得・共感したり、反発・疑問を抱いたりしながら自分の新たな考えを再構築する場とさせたい。

4 単元の指導目標と評価規準・指導計画

(1) 指導目標

※ 作品のあらましや、武士の価値観・生き方について興味や関心をもつことができる。

【関心・意欲・態度】

※ 描かれた状況や心情を読み取り、武士の価値観や生き方について考えることができる。

【読むこと エ】

※ 表現の特徴に注意して朗読し、古典の世界を楽しむことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(ア)】

※ 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物の心情について考えることができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(イ)】

(2) 単元の評価規準 (B)

	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単 元 の 評 価 規 準	作品のあらましや、武士の価値観・生き方について興味や関心をもっている。	与一の置かれていた状況や気持ちを捉えるとともに、当時の武士の生き方について読み取り、考えたことをまとめている。	助詞を付けない表現や、七・五調、対句、擬音語など表現の特徴に注意して朗読している。 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物の心情について考えている。

(3) 単元の指導計画（5時間）

	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標をしり、学習への見通しをもつ。 ・「平家物語」のあらましを知る。 ・「平家物語」の冒頭を音読する。 	冒頭文を取り上げ、『無常観』について説明する。	作品の概要や成り立ち、源平の合戦のあらましや主要な登場人物などに興味を示し、意欲的に学習に取り組んでいる。 【関】 観察
第二次	2	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を繰り返し音読し、古文特有のリズムや文体を味わう。 ・「那須与一」の場面の背景、経緯を捉える。 	助詞の省略、七五調、対句についてふれ、教科書に線を引かせる。	助詞を付けない表現や七五調、対句などの表現上の特徴に注意して朗読している。 【言】 観察・発表
	3	・「那須与一」の場面を読んで、「与一」の置かれた状況や心情を読み取り、武士の価値観や生き方について考える。	場面の状況を具体的に想像し、「与一」の心情に迫る。	「与一」の置かれた状況や心情を読み取っている。 【言】 観察・発言・ノート
	4 (本時)	・「弓流」の場面を読んで、武士の価値観や生き方について伝え合う。	ホワイトボードを活用し自分と他者の意見を比較しながら考えを深める。	黒革緘の男を射た「与一」の行動について考えたことをまとめ、伝えている。 【読】 観察・発表
第三次	5	・「敦盛の最後」「弓流」の続きの場面を合わせて読みながら「平家物語」の魅力について考え、伝え合う。	グループ毎に考え、全体で交流する。	「平家物語」の魅力について積極的に他者と交流している。 【関】 観察・発言・ノート

5 本時について

(1) 本時の目標

当時の武士の生き方について考えたことを、伝え合うことができる。

(2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意点 ★伝える ☆振り返り ◇評価 ◆支援
導入 5	<p>1 前時までの内容を想起する。 扇的的を射ることになったのは誰か。 誰の命令か。 周囲の状況 与一の覚悟。 射た時の両軍の様子。</p> <p>2 学習課題を把握する。</p>	<p>・学習シートを見ながら、前時までの学習内容を想起させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">【学習課題】 男を射た与一について考えたことを伝えよう。</div>		
展開 35	<p>3 課題解決をする。</p> <p>(1) 「弓流」の場面を音読する (2) 口語訳を読み、あらすじを捉える。 男が舞を舞った理由。 与一が男を射た理由。(誰の命令か) 両軍の様子。</p> <p>(3) その場にいた人たちの気持ちについて考える</p> <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 出された意見を参考にして、課題に対する自分の考えを書く。 (2) 書いたものをもとに、グループの中で発表し合い、他者との共通点や相違点を明らかにし、考えを深める。 (3) 代表がグループで出た意見を全体で発表する。</p>	<p>・ペア読み、一斉読みをさせる。 ・大きな声で音読するように声をかける。</p> <p>◆両軍の反応が分かる部分を口語訳から探させる。 ★個人で考えた後、ペアで伝え合わせる。 ★その後全体で交流させる。</p> <p>・時間を十分にとる。 ★書いたものをもとにグループで発表させる。自分の考えと比較しながら聞かせる。 ◇黒革緘の男を射た「与一」の行動について考えたことをまとめ、伝えている。 ◆「与一」の行動に共感できるか、できないか、その理由は何かを考えて書くように助言する。 ★ホワイトボードを使って、メンバーの考えの共通点や相違点をまとめ、発表させる。</p>
終末 10	<p>5 振り返りシートに記入する。</p> <p>6 次時の予告を聞く。</p>	<p>☆本時の学習を通して考えが深まったところや友達の考えから学んだことを書く。</p>